元福野町商工会長

西能　孜さん

さいのう　つとむ

（南砺市広安・福野）

徹さんからカメラを向けられ、笑みをこぼす西能孜さん＝2月12日、南砺市苗島の第一交易福野本店

2014年7月5日、78歳で死去

まちづくりをリード

会社経営に手腕を発揮するとともに、商工会長や観光協会長として、南砺市福野地域のまちづくりに尽くした。

福野高校（現南砺福野高校）2年生の時から、父の故正義さんが設立した第一交易で働き、経営感覚を身に付けた。37歳で社長に就任。主にセメントを販売する個人商店としてスタートした同社の業態を拡大し、U字溝などコンクリート2次製品製造販売、建設内装工事も手掛けるようになった。

特に内装工事部門は、日本海側トップクラスの業績を誇るまでに育て上げた。会社全体の売り上げは最盛期で約88億円。「先見性と人脈拡大が業績アップの原動力だった」。長男で現社長の徹さん（54）は、そうみる。社名に込められた「第一に人と交わり、長くお付き合いする」という理念を身をもって実行したという。

「福野の町が好き」が口癖だった。60歳で旧福野町商工会長に就任し、同町観光協会設立をリードした。繊維など伝統的なものづくりに代わる新たな地域振興策として、観光活性化が必要と判断したからだ。

観光客呼び込みのため、福野中心部の空き店舗や旧家をギャラリーに再生し、交流があった多摩美術大（東京）の教員や学生らの作品展、公開制作などを実施した。ギャラリー整備に当たっては商工会を受け皿に、空き店舗対策の補助金を活用した。「決断が速く、有言実行の姿勢で周囲を引っ張った」。当時、商工会事務局長を務めていた上田玲子さん（67）＝南砺市高儀・福野、経営コンサルタント事務所経営＝は振り返る。

陸上競技や文化活動で優秀な成績を収めた児童、生徒へのスポーツ賞や文化賞を独自に創設するなど、子どもの育成にも熱心だった。

昨年から体調を崩し、入退院を繰り返した。ことし7月に肺炎で亡くなった後、生前からの思いを尊重し、献眼された。「地域のため、人のため」。その姿勢を最後まで貫いた。

（南砺総局長・宮田求）

追想

ありし日

日本映画を代表するスター
文化勲章受章者の俳優

高倉　健さん

[illegible]